

都市計画マスタープラン  
の概要について





## I 都市計画マスタープランの概要について

### 1. 当別町都市計画マスタープランの見直しについて

#### 1-1 見直しの背景

当別町の都市計画マスタープランは、産業・社会構造の急速な変化や住民の価値観の多様化等に適切に対応しつつ、個性的で快適な都市づくりを進めるため、2002年（平成14年）9月に策定されました。

その後、策定から10年経過した2012年（平成24年）3月には、人口減少や少子高齢化、関係法令、上位計画の変遷といった社会的な状況の変化を踏まえた都市計画マスタープランの見直しを行いました。

計画の見直しに当たっては、町民の意見を十分に反映するため、町民と行政が意見交換をしながら見直しが行われました。

2012年（平成24年）の見直し以降、平成26年にコンパクトシティ形成に向けた取組の推進に向けた「立地適正化計画」が制度化され、平成27年には「当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」により、人口減少克服・地方創生を実現させるために必要な施策とその方向性を整理しました。

2020年（令和2年）には上位計画である「当別町第6次総合計画」が策定され、また、コンパクトシティの具体的な施策の実現のため「当別町立地適正化計画」により、都市機能の集積を図り、公共交通ネットワークとコンパクトなまちづくりを進める計画の策定がされました。

2021年（令和3年）には北海道が策定する、都市計画の基本的な方針である「当別都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」（都市計画区域マスタープラン）が見直しをされました。

これまでの都市計画マスタープランのまちづくりで目標としていた、コンパクトで持続可能なまちづくりを継続して推進すると共に、上位計画、関連計画や社会情勢の変化に伴う都市計画マスタープランの部分的な見直しを行います。

#### 1-2 見直しの必要性と目的

##### （1）人口の減少などの社会経済状況の変化

これまでに「当別町第5次総合計画」や「当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、社会情勢に即したまちづくりと地方創生を進めてきたところですが、社会保障費が増大し、地球温暖化が進み、自然災害をはじめ社会生活全般に対して安全・安心の確保対策など、更なる対応が求められています。また、全国的にも人口減少と少子高齢化が急速に進み、当別町においても、1999年（平成11年）の20,875人をピークに人口減少が続いている状況です。

こうした状況において「当別町第6次総合計画」では、時代の潮流をとらえながら、長期的展望に立ち、総合的かつ計画的なまちづくりを進めるために、まちの将来像やまちづくりの方向性を定めた計画として、定住人口は「2030年までに16,000人」の達成を目標とし、「2040年までに18,000人、2060年までに20,000人」を目指しています。



## (2) 関係法令・上位計画などの遍歴

我が国においては、人口の減少や少子高齢化時代に対応し、無秩序な市街地拡大を抑止する「コンパクトなまちづくり」を実現するため、2006年（平成18年）に都市計画法が改正されました。

加えて、2010年（平成22年）には地球温暖化や二酸化炭素排出抑制を目標とした、『低炭素都市づくりガイドライン』が策定され、これまでの拡散型都市構造から集約型都市構造への転換やエネルギー多消費型都市活動の改善、自然との共生など、低炭素都市づくりの考え方と方針が示されています。

当別町のまちづくり全体に関する計画として、『当別町第6次総合計画（基本構想編）』では、まちづくりの基本施策として、「住みよいまちづくり」「豊かな人づくり」「元気なまちづくり」「活力あるまちづくり」が掲げられています。

『当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）』では、戦略プランとして「産業力の強化」、「人を呼びこむまちの再生」、「未来を担う子どもの育成」、「住み続けたいまちの形成」を基本とし、人口減少克服・地方創生を実現させるために必要な施策とその方向性を整理し、目指すべき目標を示しています。

また、2014年（平成26年）8月に施行された改正都市再生特別措置法に基づき、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの考え方をもとにした、包括的なマスタープランである『当別町立地適正化計画』を令和2年に策定し、持続可能で利便性の高い集約型都市構造の実現に向けた居住と都市機能の誘導施策を示しています。

さらには、「当別町都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」では、都市計画区域における人口、産業の現状及び将来の見通し等を勘案して、中長期的視点に立った都市計画の基本的な方向性が示されています。

## (3) 見直しの目的

都市計画マスタープランは、町民、事業者、行政の共通理解のもと、一定の成果を挙げってきましたが、目標としていた2021年（令和3年）を間近に迎え、関連した法改正や当別町第6次総合計画及び当別町立地適正化計画の策定による新たな取組みや、具体的な取組みといったまちづくりの方向性が定められています。

都市計画マスタープランは、総合計画において都市計画に関わる根幹的な計画としての位置付けを有しているばかりでなく、各分野における個別計画や地域レベルでのきめ細やかなまちづくりの指針にもなっています。

また、当別町立地適正化計画によりコンパクトで利便性と持続性の高いまちづくりを示しております。

都市計画マスタープランによるコンパクトで持続可能なまちづくりを継続して推進すると共に、人口の減少や少子・高齢化、関係法令・上位計画の変遷といった社会的な状況の変化を踏まえ、当別町の今後のまちづくりを適正かつ着実に実行するため、都市計画マスタープランについて今回、見直しを行いました。



## 2. 当別町都市計画マスタープラン策定の目的と方法

### 2-1 都市計画マスタープランの概要

産業・社会構造の急速な変化や住民の価値観の多様化等に適切に対応しつつ、ゆとりと豊かさを実感できる人間居住の場としての個性的で快適な都市づくりを進めるためには、住民の理解と参加のもとに望ましい都市像を明らかにし、都市計画に係る各種の施策を総合的・体系的に展開していくことが重要であるとして、1992年（平成4年）の都市計画法の改正により『市町村の都市計画に関する基本的な方針（都市計画マスタープラン）』が創設されました。

都市計画マスタープランとは、「市町村が、その創意工夫のもとに、住民の意見を反映させて、将来都市像や地域別の都市計画の方針をきめ細かく総合的に定める」ものであり、都市計画区域を有する市町村では策定が責務となっています。

### 2-2 『当別町都市計画マスタープラン』策定の目的

都市計画マスタープランの創設を受け、住民との対話を重視しながら、長期的かつ総合的な視点から都市計画の基本的な方針を定めるため、『当別町都市計画マスタープラン』を策定しています。

『当別町都市計画マスタープラン』の主な役割としては次の4点が期待されます。

○当別町の望ましい都市像を明確にする役割

当別町の現状や町民の意向を踏まえて、都市計画区域全体、あるいは地域別に望ましい都市像や都市づくりの基本的な方針を明確にする役割があります。

○都市計画の整合性や総合性を確保する役割

土地利用や市街地開発事業、都市施設の整備などの分野別計画を相互に調整することで、都市計画の整合性や総合性を確保する役割があります。

○個別の都市計画に関して決定や変更の方向性を示す役割

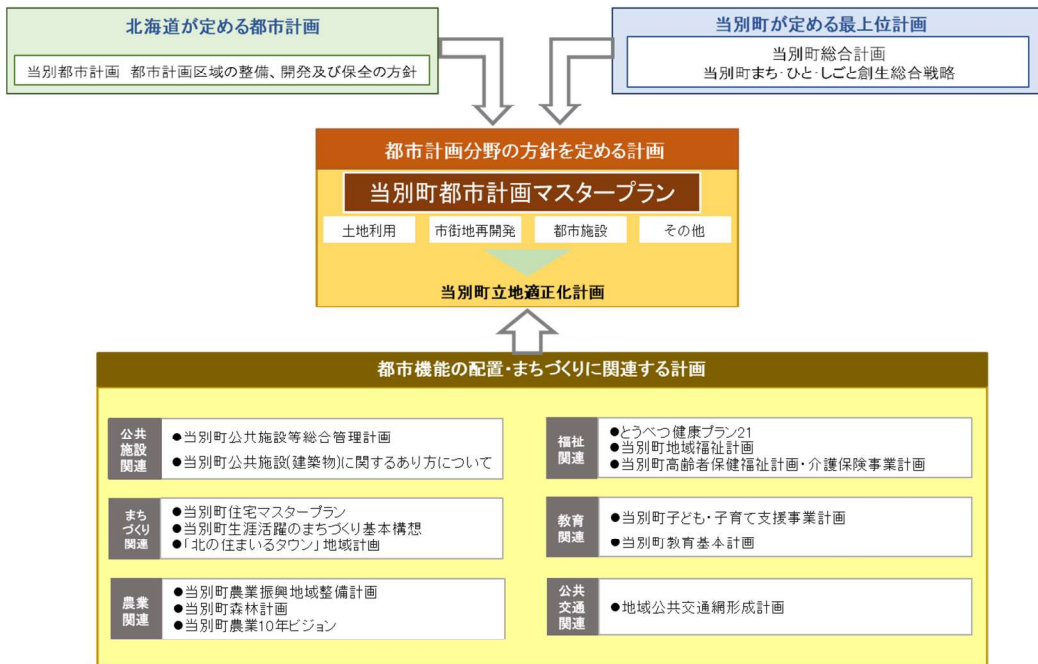
用途地域、土地区画整理事業、道路や公園など個別の都市計画の決定や変更の方向性を示す先導的な役割があります。

○都市計画の目標を町民にわかりやすく示し、理解を深める役割

都市計画の目標を町民にわかりやすく示すことで、将来の都市像の実現に向けて推進する各種の都市計画事業に対して町民の理解を深める役割があります。

## 2-3 『当別町都市計画マスタープラン』の位置づけ

『当別町都市計画マスタープラン』は、上位計画である『当別町第6次総合計画』及び『当別町都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針』に即して見直しを行いました。また今後は、『当別町都市計画マスタープラン』に即して分野別の都市計画や個別の都市計画を推進します。



※当初の都市計画マスタープラン（2002年（H14年））が策定された以後、都市計画法の改正等により新たに策定された北海道の計画。

- ・コンパクトなまちづくりに向けた基本方針（2006年（H18年））
- ・当別町都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（2003年（H15年）、2010年（H22年）変更）

## 2-4 対象とする区域

『当別町都市計画マスタープラン』は、都市計画の基本的な方針を定める計画であることから、当別町都市計画区域を対象とします。



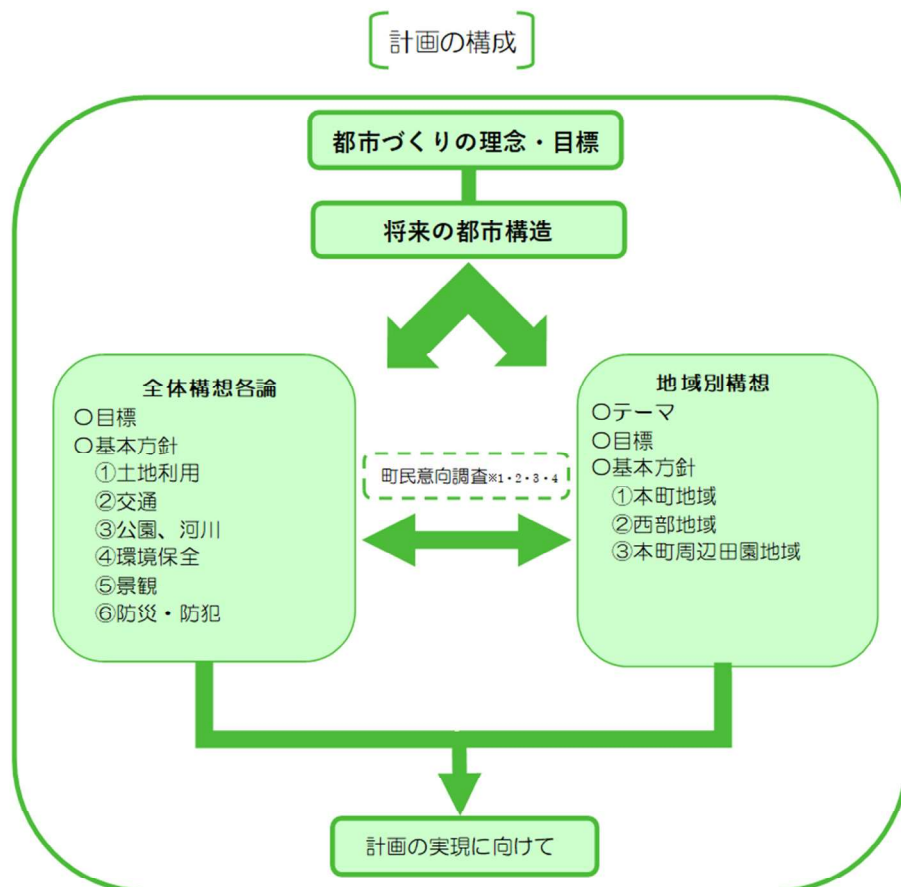
## 2-5 目標とする時期

都市計画マスタープランは都市計画だけではなく、都市計画の前提となる都市構造、土地利用、都市環境の将来像の指針となる役割もあり、長期的な視点から都市計画の基本的な方針を定める計画であることから、『当別町都市計画マスタープラン』は2040年（令和22年）を目標とします。

ただし、『当別町第6次総合計画』、『当別町都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針』の目標年次が概ね10年間であることから、各種計画の反映を行うため、中間年度で必要に応じて見直しを行います。

## 2-6 計画の構成

『当別町都市計画マスタープラン』は、都市計画区域全体に関わる基本的な方針を定める「全体構想」と、都市計画区域を3地域に分け、各地域に関わる基本的な方針を定める「地域別構想」を中心として構成されています。



※1 地域別ディスカッション（2010年（H22年）実施 見直し策定時）

※2 町民向けアンケート調査（2018年（H30年）実施 立地適正化計画策定時）

※3 グループインタビュー（2019年（令和元年）実施 第6次総合計画策定時）

※4 住民ワークショップ（2019年（令和元年）実施 立地適正化計画策定時）



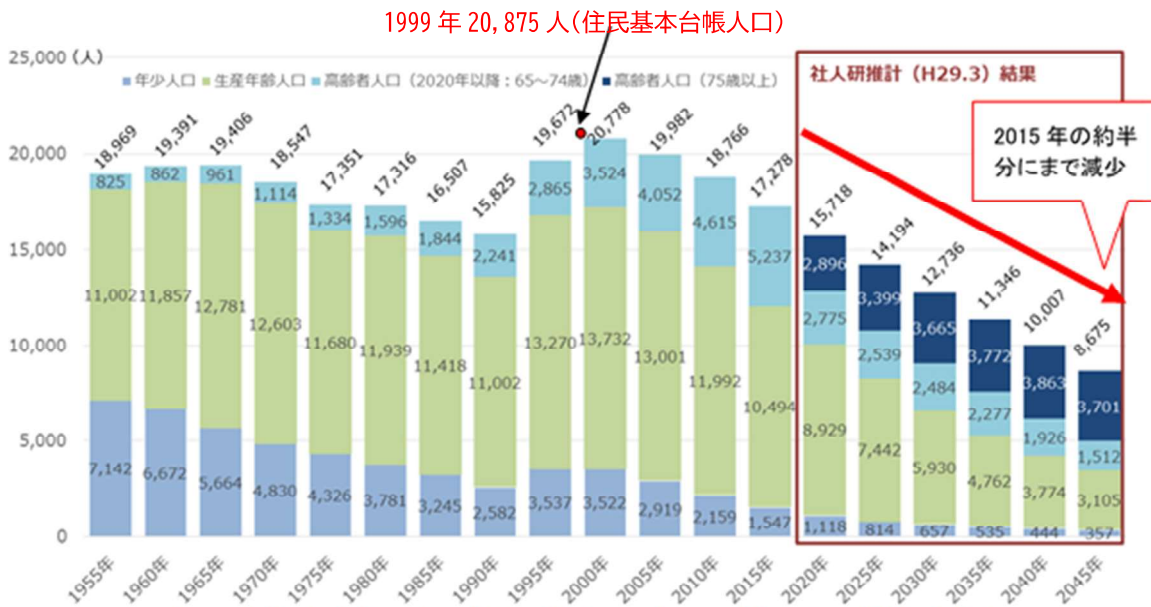
### 3. 当別町の現況と課題

#### 3-1 当別町の現況

##### 1) 人口動向

当別町は、1988年（昭和63年）の札幌大橋開通を契機に太美市街地への人口流入が進み、1999年（平成11年）時点でピークとなる人口20,875人（住民基本台帳人口）まで増加しました。しかし、その後、高齢者人口は増加するものの生産年齢人口及び年少人口が減少し続けています。最新の国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）推計では、2030年以降には高齢者人口も減少を始め、約30年後の2045年には、2015年の約半分にまで人口減少するという結果となっています。

一方、当別町第6次総合計画では、「目指すまちづくり」に基づく政策を推進し、定住人口を2040年までには18,000人、2060年までに20,000人となることを目指しています。



人口の推移と今後の人口推移の推計 <各年国勢調査及び社人研推計>

##### 2) 都市計画区域

当別町の都市計画区域は16,768haであり、行政区域の4割弱となっています。都市計画法による規制が都市地域だけでなく、農業地域や森林地域にもかかっていることで、自然環境の適正な保全が可能となっています。

（令和2年3月31日現在、出典：北海道の都市計画 ※都市計画区域面積については、都市計画区域に変更はないが、測量精度の高度化に伴い面積の修正。（令和3年3月変更）

表 都市計画区域の状況

	当別町
行政区域面積 (ha)	42,286
都市計画区域面積 (ha)	16,768
対行政区域比 (%)	39.7
用途地域面積 (ha)	542
対都市計画区域比 (%)	3.2





### 3) 用途地域

当別町の用途地域面積の約7割が住居専用系用途であることがわかります。一方、工業系用途は比率が低くなっています。また、準防火地域は、商業系用途をカバーしています。

このほか、樺戸町、対雁の各一部（本町地区準工の一部）において、特別用途地区（特別工業地区）20.0haを指定しています。

住居専用系用途：第1種・第2種低層住居専用地域、  
第1種・第2種中高層住居専用地域

住居系用途：第1種・第2種住居地域、準住居地域

商業系用途：近隣商業地域、商業地域

工業系用途：準工業地域、工業地域、工業専用地域

表 用途地域の状況

		当別町
住居専用系面積	(ha)	370
対用途地域比	(%)	68.3
住居系面積	(ha)	98
対用途地域比	(%)	18.1
商業系面積	(ha)	32
対用途地域比	(%)	5.9
工業系面積	(ha)	42
対用途地域比	(%)	7.7
準防火地域面積	(ha)	32
対商業系比	(%)	100.0

(令和2年3月31日現在、出典：北海道の都市計画)

### 4) 市街地開発事業

当別町では市街地開発事業として2地区、約57haが施行区域として決定され全てが完了しています。

表 市街地開発事業の状況

		当別町
行政区域面積	(ha)	57.2
施行済み面積	(ha)	57.2
施行率	(%)	100.0
公共用地面積	(ha)	17.8
対公共用地率	(%)	31.1

(令和2年3月31日現在、出典：北海道の都市計画)

### 5) 都市計画道路

当別町では都市計画道路として約22kmが計画決定されており、5割弱が整備完了しています。

※当別町における特殊道路は、歩行者専用道路

表 都市計画道路の整備状況

		当別町
総計画延長	(km)	21.8
改良済み延長	(km)	10.2
改良率	(%)	46.8
舗装済み延長	(km)	10.2
舗装率	(%)	46.8
内 特殊道路計画延長※	(km)	1.5

(令和2年3月31日現在、出典：北海道の都市計画)



## 6) 都市計画公園・緑地

当別町では都市計画公園・緑地として約 67ha が計画決定されております。公園は 7 割超が供用済みです。

町民生活に身近な都市計画公園である街区公園、近隣公園、地区公園は、約 17ha が計画決定されており、全てが供用済みとなっています。

表 都市計画公園の状況

		当別町
都市計画区域人口	(千人)	16.4
総計画面積(公園緑地)	(ha)	66.9
供用済み面積	(ha)	27.9
供用率	(%)	41.7
対人口比	(㎡/人)	17.0
内 公園計画面積	(ha)	29.8
供用済み面積	(ha)	21.9
供用率	(%)	73.5
対人口比	(㎡/人)	13.3
内 緑地計画面積	(ha)	37.1
供用済み面積	(ha)	6
供用率	(%)	16.2
対人口比	(㎡/人)	3.7

(令和 2 年 3 月 31 日現在、出典：北海道の都市計画)

## 7) 公共下水道

当別町では公共下水道の排水区域として、用途地域をカバーするように 579ha が計画決定されており、約 9 割が供用済みとなっています。

表 公共下水道の状況

		当別町
排水区域(計画)	(ha)	579
対用途地域	(%)	106.8
供用済み面積	(ha)	519
供用率	(%)	89.6

(令和 2 年 3 月 31 日現在、出典：北海道の都市計画)

## 3-2 町民意向調査

「当別町立地適正化計画」（令和2年3月策定）、「当別町第6次総合計画」（令和2年3月策定）の策定に伴い、住民意向の確認と施策の方向性を検討するためアンケート調査、ワークショップ等を実施しています。

これらのアンケート調査等の町民意向調査の実施結果を活用し、都市計画マスタープランの見直しを行いました。

### ●住民アンケート調査

#### (1) 目的

町民の方々の日常行動（外出目的、頻度、交通手段）、徒歩・自転車圏内に必要なサービス、居住意向（継続、住み替え）、主要施設の満足度・重要度・配置評価等をアンケートで把握し、内容や立地条件を見直す必要のある施設、反対に、満足度が高く、多くの方々に利用してもらえる（拠点となりうる）と考えられる施設等を抽出しました。

#### (2) 実施概要

調査対象	町内に居住する18歳以上の男女
配布対象数	1,000人
調査方法	郵送配布、郵送回収
調査時期	平成30年8月3日～8月26日
回収率	27.4%

### ●住民ワークショップ

#### (1) 目的

「子育て世代」、「北海道医療大学生」及び当別まちづくり会社を対象に、住民ワークショップを実施しました。

#### (2) 実施概要

対象	子育て世代	北海道医療大学生	当別まちづくり会社
日付	令和元年9月11日（水） 9月12日（木）	令和元年10月1日 （火）	令和元年10月1日 （火）
場所	総合保健福祉センター 認定こども園おとぎのくに	北海道医療大学	辻野建設工業（株）
人数	12人	13人	4人

### ●グループインタビュー

#### (1) 目的

町内で活躍している団体に対し、日頃の活動を通じて感じている現状や課題等について、新しい総合計画における施策の方向性を検討するための基礎資料とすることを目的としてヒアリングを実施しました。

#### (2) 実施概要

調査対象	町内で活動する各団体 14団体
調査方法	ヒアリング形式
調査時期	令和元年6月13日～7月9日



## ◆各アンケート調査等調査結果

	町民意向
土地利用区分	<p>【H30年アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「徒歩や交通機関を利用して生活できる、コンパクトな市街地が形成されている」の項目について、満足している方より不満に思っている方が多い。</li> <li>・「豊かな農村環境や森林、河川などの自然環境が保全されている」の項目について、不満に感じている方より満足している方が多い。</li> <li>・「美しい田園風景が形成され維持されている」の項目について、不満に感じている方より満足している方が多い。</li> </ul> <p>《アンケート調査分析》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅周辺に公共施設や商業施設などの利便性の高い施設が必要。</li> <li>・歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを形成する必要がある。</li> </ul> <p>【グループインタビュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が増加していくことを考えると、コンパクトシティの実現が必要なのではないか。</li> </ul> <p>【子育て世代ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内で日用品の購入はできるが、衣料品、靴等は町外までいかなければならない。</li> <li>・スーパーが2か所しかなくて不便。</li> <li>・大規模スーパー等があるとよい。</li> <li>・家族で行ける飲食店が少ない。</li> </ul> <p>【大学生・まちづくり株式会社】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ショッピングモールや大規模なスーパーがほしい。</li> <li>・現商店街をどうしていくのか。空き店舗のままにせず、空いたら次に入って商売をする人に来てもらえるようにすることが大切。</li> <li>・学生から、駅近くに商業施設がほしいという声は多い。</li> </ul>
住宅系土地利用	<p>【H30年アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活に便利なマンション等の集合住宅が増え、コンパクトな居住環境がある」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> <li>・「戸建住宅の良好な居住環境がある」の項目について、不満に感じている方より満足している方が多い。</li> </ul> <p>《アンケート調査分析結果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商業業務施設などと複合化した集合住宅などが必要。</li> <li>・都市近郊で緑豊かな自然環境のなかで生活できることに満足している。</li> </ul> <p>【グループインタビュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当別町版の空き家、空き店舗バンクがあると便利である。</li> </ul>
商業業務系土地利用	<p>【H30年アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「樹木や花、歴史などを活用した当別らしいまちなみが形成されている」の項目について、満足している人より不満に感じている方が多い。</li> <li>・「人の集まる賑わいのある商店街がある」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> <li>・「駅周辺に公共施設や商業施設など利便性の高い施設がある」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> </ul> <p>《アンケート調査分析結果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花や歴史などの当別町の特徴を生かした賑わいのある商店街が必要。</li> <li>・買い物や娯楽施設の充実が必要。</li> </ul> <p>【グループインタビュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当別町版の空き家、空き店舗バンクがあると便利である。</li> <li>・大規模スーパー等があるとよい。</li> </ul> <p>【大学生・まちづくり株式会社】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ショッピングモールや大規模なスーパーがほしい。</li> </ul>



町民意向	
商業業務系 土地利用	<p>【子育て世代ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内で日用品の購入はできるが、衣料品、靴等は町外までいかなければならない。</li> </ul>
工業流通系 土地利用	<p>【H30年アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国道沿線への積極的な企業誘致と雇用の創出がされている」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> <li>・「地場産業の育成や企業の誘致による地域産業が活性化されている」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> </ul> <p>《アンケート調査分析結果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業誘致の推進や地域産業の活性化による雇用の創出が必要である。</li> </ul> <p>【グループインタビュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の働く場所（アルバイト、就職先）がない。</li> </ul>
農業地域	<p>【H30年アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「豊かな農村環境や森林、河川などの自然環境が保全されている」の項目について、不満に感じている方より満足している方が多い。</li> <li>・「体験農園など来訪者が家族で楽しめる都市と農村の交流空間がある」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> </ul> <p>《アンケート調査分析結果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市と農村の交流を図る体験農園等の推進が必要。</li> </ul> <p>【グループインタビュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化による担い手不足や人手が不足しているため、新規就農者への支援が必要である。</li> <li>・米の需要が高く、水田として利用したい。</li> <li>・土地改良の助成が乏しいため、助成を強化し農地の基盤整備が必要である。</li> <li>・民間アクティビティ施設との更なる連携や、農業を活かした観光事業の構築が必要である。</li> </ul>
自動車道路	<p>【H30年アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域間及び周辺市町村を結ぶ幹線道路整備がされている」の項目について、不満に感じている方より満足している方が多い。</li> <li>・「町内を快適、安全に移動できる道路・歩道の整備がされている」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> </ul> <p>《アンケート調査分析結果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域交通ネットワークの整備が必要。</li> <li>・冬季間でも安全に移動できる道路整備が必要。</li> </ul>
歩行者道路	<p>【H30年アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「道路、交通機関についてバリアフリーの配慮がされている」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> <li>・「体験農園など来訪者が家族で楽しめる都市と農村の交流空間がある」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> <li>・「町内を快適、安全に移動できる道路・歩道の整備がされている」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> </ul> <p>《アンケート調査分析結果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリー化した歩行空間が必要。</li> <li>・都市と農村の交流が必要。</li> </ul> <p>【子育て世代ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車で通学する場合、歩道が狭く、危険。自転車のための道の整備を考えるとどうか。</li> </ul> <p>【大学生・まちづくり株式会社】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクリングロードの整備をしてはどうか。ロードレースをするところがあるとよいのでは。</li> </ul>



## 町民意向

町民意向	
公共交通	<p>【H30年アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「バスの利便性がよい」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> <li>・「鉄道(JR)の利便性がよい」の項目について、不満に感じている方より満足している方が多い。</li> <li>・「道路、交通機関についてバリアフリーの配慮がされている」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> </ul> <p>《アンケート調査分析結果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスの利便性向上、公共交通のバリアフリー化が必要。</li> </ul> <p>【グループインタビュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもから高齢者まで、快適に移動することができるよう公共交通を充実させてほしい。</li> <li>・朝込んでいてバスに乗れなかったり、待ち時間が長かったり、やむなくJRでの移動を選択することがある。</li> <li>・JRの本数が増えたり、札幌まで快速があると便利だと思う。</li> </ul> <p>【子育て世代ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスの利便性が悪くほとんど使わない。車での移動となる。</li> <li>・西当別コミュニティーセンターから本町方面、札幌あいの里に行けるバス停があるとよい。</li> </ul> <p>【大学生・まちづくり株式会社】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町から外に出る交通手段が少ない。江別に行くのが不便。</li> <li>・ふれあいバスは、利用する学生が多いが、混んでいて乗りにくいことがある。当別～大学のアクセスが良くなる（便が増える）と良い。</li> <li>・たまに利用する。もう少し本数がほしい。朝に混んでいることがある。</li> <li>・ふれあいバスの経路が長い。ショートカットできる道があるとよい（太美から通う人）。</li> <li>・JRの便が増えたら良い。</li> <li>・交通機関の乗り継ぎの間の空き時間が多い。札幌～当別間の交通の時間を充実させ、札幌に出やすくすると住みやすいのでは。</li> </ul>
公園	<p>【H30年アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「憩いの場、交流の場として活用される公園、緑地が整備されている」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> <li>・「自然豊かなレクリエーション空間、身近な親水空間として河川が整備されている」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> </ul> <p>《アンケート調査分析結果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園、緑地の整備促進が必要。</li> </ul> <p>【グループインタビュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児が遊べる屋内施設や子育て中のお母さんが気軽に集える場所がゆとろしかない。</li> <li>・公園の遊具が整備されていなかったり、外で遊ぶ場所が少ない。</li> </ul> <p>【子育て世代ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園には大きな子ども向けの遊具はあるが、小さな子ども向けの遊具のあるところが少ない。</li> <li>・子供が遊べる屋内施設があるとよい。</li> <li>・あいあい公園、遊遊公園はあるが歩いていける近所の小さな公園は遊具もなく遊ばせられない。</li> <li>・公園は阿蘇公園に新しい遊具ができてよいが、トイレが汚くて利用しづらい。</li> <li>・ライラック公園にも新しい遊具ができるが駐車場がない。</li> </ul> <p>【大学生・まちづくり株式会社】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクリングロードの整備をしてはどうか。ロードレースをするところがあるとよいのでは。</li> </ul>



町民意向	
河川	<p>【H30年アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然豊かなレクリエーション空間、身近な親水空間として河川が整備されている」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> </ul> <p>《アンケート調査分析結果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親水空間の整備が必要。</li> </ul>
農地、森林	<p>【H30年アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「豊かな農村環境や森林、河川などの自然環境が保全されている」の項目について、不満に感じている方より満足している方が多い。</li> <li>・「自然豊かなレクリエーション空間、身近な親水空間として河川が整備されている」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> </ul> <p>《アンケート調査分析結果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を身近に感じられる環境が必要。</li> </ul> <p>【グループインタビュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天体観測所などの自然を生かした遊べる施設があれば、町の雰囲気合っていると思う。</li> <li>・空気がおいしく、自然にあふれた田舎ながらのよさを生かしたまちづくりをしてほしい。</li> </ul> <p>【子育て世代ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境が良くいいところだと思う。</li> </ul>
河川、 上下水道	<p>【H30年アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「安全安心な上水の確保及び公共下水道の整備がされている」の項目について、不満に感じている方より満足している方が多い。</li> </ul> <p>《アンケート調査分析結果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水質保全、下水道施設の適切な維持管理が必要。</li> </ul>
廃棄物処理、 エネルギー	<p>【H30年アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「太陽光、風力といった再生可能エネルギーの活用がされている」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> </ul> <p>《アンケート調査分析結果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再生可能エネルギーの利活用の推進が必要。</li> </ul>
街なみ景観	<p>【H30年アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「樹木や花、歴史などを活用した当別らしいまちなみが形成されている」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li> <li>・「戸建住宅の良好な居住環境がある」の項目について、不満に感じている方より満足している方が多い。</li> </ul> <p>《アンケート調査分析結果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花や歴史などの当別町の特色を生かしたまちづくりが必要。</li> <li>・統一感を感じられるまちなみの維持が必要。</li> </ul> <p>【グループインタビュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当別町の歴史文化を伝える手段が貧弱であることから、看板の設置や街並みの統一をした方がよい。</li> </ul>
自然景観	<p>【H30年アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「豊かな農村環境や森林、河川などの自然環境が保全されている」の項目について、不満に感じている方より満足している方が多い。</li> <li>・「美しい田園風景が形成され維持されている」の項目について、不満に感じている方より満足している方が多い。</li> </ul> <p>《アンケート調査分析結果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然景観の維持が必要。</li> </ul>
環境美化	<p>【H30年アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「町民、町内会、行政が協力して、ごみが落ちていないなどの環境美化がされている」の項目について、不満に感じている方より満足している方が多い。</li> </ul> <p>《アンケート調査分析結果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境美化の維持が必要。</li> </ul>



町民意向	
防災・防犯	<p>【H30年アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「地震災害、風水害、火災に対して安全なまちが形成されている」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li><li>・「防犯体制や防犯設備が整備され、安心して暮らしていける」の項目について、満足している方より不満に感じている方が多い。</li></ul> <p>《アンケート調査分析結果》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・安心して暮らせる、災害に強いまちづくりが必要。</li><li>・街灯の整備が必要。</li></ul> <p>【グループインタビュー】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・震災の時、町からの正確な情報を得ることが難しかった。公式のラインアカウントやインスタグラムなど、若者向けの情報発信も必要なのではないか。</li><li>・実際に災害が発生した時、訓練等でいつ起こってもいいように備えておくべき。</li><li>・小さな路地等の街灯が少なく、夜になると怖い。</li></ul>



### 3-3 まちづくりの課題

当別町が抱える現状と課題を整理すると、以下のとおりです。

	都市計画上の現況	課題
土地利用区分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本町市街地と太美市街地には用途地域が指定され、建物の用途等について規制・誘導されており、計画的な人口の集積を図っている。</li> <li>・市街地の周辺は、農業を振興する地域として農業地域に指定されている。</li> <li>・町の大部分が農地や森林で占めている。</li> <li>・一部地域を除き、農業地域と森林地域では建物用途についての法的規制が弱い。</li> <li>・市街地の一部は区画道路や下水道などの都市基盤が未整備の地区がある。</li> <li>・小規模な空き地や空き家や未分譲宅地がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用途地域と農業地域に指定され、規制・誘導が進められているものの、市街地の明確な輪郭がないため、市街地が無秩序に拡大する懸念がある。</li> <li>・農業地域や森林地域では法的規制が弱い箇所では、地域に好ましくない建物が立地する懸念がある。</li> <li>・コンパクトで利便性の高い機能的で効率的な都市づくりが必要であり、2つの市街地を中心に都市機能や居住の誘導・集積する必要がある。</li> <li>・駅周辺の低未利用地や空き地を活用した利便性の高い土地利用が必要。</li> <li>・市街地内は、住宅地、商業業務地、工業流通地などを適正に配置し、機能的で効率的な都市づくりを進める必要がある。</li> </ul>
住宅系土地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本町地域の中心部では人口が大幅に減少している。</li> <li>・近自然型住宅地として、スウェーデンヒルズやみどり野、優良田園住宅地が整備されている。特にスウェーデンヒルズは建築協定により街なみが統一され、良好な住環境が形成されている。</li> <li>・市街地外では、旧学校などを中心として農業集落が形成されている。</li> <li>・開発行為によって宅地造成された住宅地では未利用地が残されている。</li> <li>・北海道医療大学生数は約3,500人で、4人に1人は町内居住（町民の5%）。</li> <li>・大都市近郊で緑豊かなゆとりある宅地を提供できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大幅な人口の減少により、中心市街地の空洞化、衰退が懸念される。</li> <li>・スウェーデンヒルズやみどり野といった近自然型住宅地は住環境を阻害する建築物が立地する懸念がある。</li> <li>・未利用地や空き家等の解消を図る必要がある。</li> <li>・豊かな自然環境を活用して、住宅市街地の魅力を高める必要がある。</li> <li>・農業集落では担い手不足や生産者の高齢化や人口の減少による、地域コミュニティの衰退が懸念される。</li> <li>・多様化する住宅ニーズに対応した住環境の供給が必要。</li> <li>・北海道医療大学生が町内で居住するための環境の確保が必要。</li> <li>・子育て世帯の居住環境の確保が必要。</li> </ul>
商業業務系土地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石狩当別駅の南側に小売店舗、飲食店舗、業務施設が立地し、商業業務地が形成されている。しかし、購買力の町外流出が進んでおり、賑わいが低い。</li> <li>・城下町らしい細く、曲がった道路は北海道では珍しく、また市街地内を小河川が流れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民の参加により商業地の緑化を進め、魅力を高めることが必要である。</li> <li>・細く曲がりくねった道路やパンケチュウベシナイ川を生かし、個性的な商店街の形成が必要である。</li> <li>・駅周辺に人の滞留・交流の場の創出が必要。</li> </ul>



	都市計画上の現況	課題
商業業務系 土地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>石狩太美駅の北側は、小規模の小売店舗、飲食店舗が立地している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩いて楽しい個性的な商店街を形成し、賑わい創出が必要。</li> </ul>
工業流通系 土地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>石狩湾新港と新千歳空港を連絡する国道 337 号（道央圏連絡道路）が整備中である。</li> <li>国道 275 号沿道では工業流通施設と住宅が混在する地区がある。</li> <li>産業の売上金額の伸びに対し雇用が減少している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道 275 号の沿道における住工混在を解消し、工業流通系への用途の純化が必要。</li> <li>札幌市、石狩湾新港への近接性、国道 337 号（道央圏連絡道路）、国道 275 号などを生かして、企業誘致と地元雇用の創出が必要。</li> </ul>
※新しいまち の顔	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 29 年「北欧の風 道の駅とうべつ」開業。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「北欧の風 道の駅とうべつ」周辺では、交流人口の増加に対応した周辺の整備が必要。</li> </ul>
農業地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>水田を中心とした優良農地が広がっており、近年は花卉、野菜など付加価値の高い高収益作物の生産が増加している。</li> <li>農業経営の逼迫により離農者が増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>優良農地の保全を図る必要がある。</li> <li>農地を活用した体験型農園や観光型農園による都市と農村の交流が必要である。</li> <li>農業集落のコミュニティの維持及び周辺環境の整備が必要。</li> </ul>
自動車道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道 275 号により道北圏と連絡している。また国道 337 号（道央圏連絡道路）が整備中である。</li> <li>道道札幌当別線、道道岩見沢石狩線等により隣接市町村と連絡している。</li> <li>都市計画道路として本町地域に 12 路線、約 20km が計画決定されており、5 割弱が供用されている。</li> <li>市街地内には、老朽化した道路幅員が狭い道路や行き止まり、凸凹道路等が散見される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画決定路線を幹線道路として、市街地内の良好な道路ネットワークの形成や近隣市町村との広域的な連絡性を図るため、整備を促進する必要がある。</li> <li>老朽化や幅員が狭い道路や凸凹道路等の解消が必要。</li> </ul>
歩行者道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画決定されている歩行者道路は 3 路線、約 1.5 km が整備されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幹線道路の歩道、市街地内の河川沿いや市街地外縁部における緑道等の整備により、歩行者が安全に移動できる歩行者・自転車道路のネットワークとあわせて、緑のネットワークを形成する必要がある。</li> </ul>
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 30 年 3 月に持続可能な公共交通の実現を目指すため、新たに「当別町地域公共交通網形成計画」を策定した。</li> <li>町内には J R 札沼線（学園都市線）が 3 駅設置され、石狩当別駅の橋上駅舎や都市計画決定されている駅前広場、石狩太美駅の整備が完了している。</li> <li>令和 2 年 5 月、J R 札沼線の一部が廃線となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「当別町地域公共交通網形成計画」に基づき石狩当別駅、石狩太美駅の交通拠点性を高めるとともに、市街地と各地域を結ぶ公共交通の維持・確保が必要。</li> <li>J R 札沼線（学園都市線）の高速化、増便などのサービスの強化により利用の促進が必要。</li> <li>廃線となった「北海道医療大学駅～石狩月形駅」間については、従来よりも利便性が向上した代替交通の確保が必要。</li> <li>石狩当別駅、石狩太美駅の高齢化社会等にも対応し、だれでも利用しやすい公共交通が必要。</li> </ul>



	都市計画上の現況	課題
交通誘導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共公益施設へ誘導する案内サインは多種多様。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内外から訪れる観光客などを円滑に目的地に誘導するため、景観に配慮した統一感のある案内サイン、誘導サインなどの検討が必要。</li> </ul>
公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画公園として、公園9箇所、緑地2箇所が都市計画決定されている。公園の整備率約7割、緑地の整備率約2割となっている。</li> <li>・民間開発行為等に伴い小規模な公園が整備され、町に移管されている。</li> <li>・各地域に閉校となった旧校舎がある。</li> <li>・『当別町公園施設長寿命化計画』に基づく長寿命化事業の推進を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地や河川緑地を適切に保全・管理することで、豊かな自然を取り入れた快適な都市空間の形成が必要である。</li> <li>・都市計画公園である若葉公園や当別川河川緑地の整備促進が必要である。</li> <li>・身近な憩いの場、交流の場として、公園施設等の老朽化対策やバリアフリー化に取り組む必要がある。</li> <li>・都市公園の集約化を図り、維持管理の効率化が必要である。</li> <li>・本町周辺田園地域におけるレクリエーションやコミュニティ空間の創出が必要。</li> <li>・旧校舎などの適正な維持管理が必要。</li> </ul>
河川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地内の小河川としてパンケチュウベシナイ川が流れている。</li> <li>・大規模な河川として石狩川、当別川が流れている。</li> <li>・当別川には都市緑地が計画決定され、整備率は約2割に留まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市緑地の保全・管理により、豊かな自然を生じたレクリエーション空間の創出が必要。</li> <li>・大規模な河川については、河川空間を保全しつつ、自然豊かなレクリエーションや健康増進施設として整備する必要がある。</li> <li>・市街地内の小河川を活用し、身近な親水空間の創出を図る必要がある。</li> </ul>
農地、森林	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画区域の97%は農業地域、森林地域に指定されている。</li> <li>・ゴルフ、スキー場等レクリエーション施設が整備されている。</li> <li>・市街地の北部には豊かな森林地域が広がっており、一部では土石の採取に伴う森林伐採が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民や近隣市町村の住民を引き付ける更なるレクリエーション空間の創出が必要。</li> <li>・地球温暖化防止や国土の保全、美しい景観づくり、水源保全のため、森林伐採を伴う開発行為等の抑制に取り組む必要がある。</li> <li>・農地や森林の保全が必要。</li> </ul>
河川、上下水道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上水の水源として当別ダムが（平成24年10月）に完成。</li> <li>・污水处理については農業集落排水による集合処理区とみどり野の処理区を公共下水道に一元化した。</li> <li>・処理区域外のし尿処理は札幌市へ事務委託している。</li> <li>・『当別町下水道ストックマネジメント計画』（令和2年2月策定）に基づき適正な維持管理を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来にわたって安全な上水の水源を確保するとともに、配水施設の維持管理を進める必要がある。</li> <li>・土地利用計画と整合した污水处理施設の整備が必要である。</li> <li>・老朽化した下水道施設の計画的な改築更新が必要である。</li> <li>・市街地内の未利用地の宅地化による雨水流出量の増大に対応した雨水排水施設の整備または流量の調整が必要である。</li> <li>・河川の水質保全を図るため、市街地街地外の生活排水の整備が必要である。</li> </ul>



	都市計画上の現況	課題
廃物処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミ排出量はゴミの有料化に伴い近年減少傾向にあり、分別収集が定着し、資源ゴミの回収によるリサイクルが行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物の減量化、資源リサイクルへの取り組みを進める必要がある。</li> </ul>
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年に持続可能で自立した循環型社会システムの構築を目指し「当別町再生可能エネルギー活用推進条例」を策定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な地域づくりを進めるため、木質バイオマスや地中熱など、本町の地域特性を活かした再生可能エネルギーの活用推進が必要。</li> </ul>
街なみ景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低層の建築物が多く、市街地の背景となる農地や森林が眺望できる。</li> <li>・本町地域の商業地は、城下町らしい道路形態を残しており、特徴的である。</li> <li>・丘陵地に位置するスウェーデンヒルズは、建築協定により統一感のある街なみを担保している。</li> <li>・道路や河川沿いは、快適性に欠ける傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路や河川などで景観整備を行うことで快適性を高める必要がある。</li> <li>・スウェーデンヒルズの建築協定は世代交代による形骸化が懸念される。</li> <li>・周辺環境と調和がとれた景観形成が必要である。</li> <li>・歴史的な情緒を感じさせる個性的な商店街の景観づくりや、道路沿道や河川沿いの修景整備に取り組む必要がある。</li> </ul>
自然景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市の北西部に山林が形成されて、当別川の河口から源流に沿って変化に富んだ景観となっている。</li> <li>・西部地域の耕地防風林が特徴的な景観を形成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田園景観、森林景観を保全し、豊かな自然に囲まれた個性的な都市づくりを進める必要がある。</li> <li>・市街地周辺の農地や森林を活用したレクリエーション空間を創出し、生活の身近にある自然空間として保全・活用を図る必要がある。</li> </ul>
環境美化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミの不法投棄が町内の随所で行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不法投棄をなくすための啓発、監視を徹底など、町民、町内会、行政が協力して、環境美化を進める必要がある。</li> </ul>
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地内では商業地域・近隣商業地域 32ha を準防火地域に指定しているほか、他の用途地域には建築基準法の 22 条区域（屋根、外壁の不燃化）を指定している。</li> <li>・開拓以来、石狩川や当別川の氾濫による水害が発生していたが築堤の整備により、外水の氾濫による被害は減少した。一方、都市化の進展により内水滞留による水害のリスクが高まっている。</li> <li>・有数の豪雪地帯であり、石狩川から吹き込む冬の季節風により吹雪となることが多い。</li> <li>・地すべり危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所、土石流危険渓流などがあり、北海道では順次基礎調査を行い土砂災害警戒区域等の指定を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木造家屋の密集地区においては、防災建造物への建替促進を図るなど災害に強い都市づくりを進める必要がある。</li> <li>・震災に強い都市づくりを推進するため建物の耐震化を進める必要がある。</li> <li>・適正な森林整備の推進による土砂災害等の防止対策、防風林の保全や道路防雪林や防雪柵の整備などによる雪害対策、雨水排水施設の計画的な整備また流量の調整による水害対策を進める必要がある。</li> <li>・災害時に安全かつ迅速な避難、誘導を行うため、防災ネットワークや防災情報システムの構築とともに、避難路や避難場所の確保が必要。</li> <li>・交通事故や防犯の防止対策が必要。</li> </ul>



## 4. 都市づくりの理念・目標

### 4-1 まちづくりの基本理念

我が国において、社会保障費の増大、地球温暖化の進行、自然災害をはじめ社会生活全般に対する安全・安心の確保対策など、更なる対応が求められています。当別町においても、1999年(平成11年)の20,875人をピークに人口減少が続いている状況です。そうしたなか、時代の潮流をとらえながら、長期的展望に立ち、総合的かつ計画的なまちづくりを進めるために、まちの将来像やまちづくりの方向性を見据えた令和2年度を始期とする『当別町第6次総合計画』が策定されています。

#### 1) 時代の潮流

##### ①人口減少と少子高齢化の進行

全国で出生率・出生数が低下し、急速に進む人口減少と少子高齢化に歯止めがかかっていない状況で、今後もさらに進行すると、社会保障費の増大・消費の低下や経済規模の縮小・労働人口不足や地域コミュニティといった都市機能の低下が懸念されるどころです。持続的な発展のために、人口減少の抑制や少子高齢化への的確な対応が求められており、また、地域外であって、移住でも観光でもなく、当別町と継続的かつ多様な形で関わり、地域課題の解決に資する「関係人口」の創出・拡大を図る必要があります。

##### ②安全・安心に対する意識の高まり

多発する自然災害や食環境・子どもを取り巻く環境、ICT(情報通信技術)を逆手に利用した犯罪など社会生活全般に対する不安が高まっており、安全・安心を確保する対策が求められています。減災を意識した強靱なまちづくりや、住民同士のつながりを深めることで自助・共助といった行動を促すなど、安心して暮らせる環境づくりが重要となっています。

##### ③高度情報化・技術革新の進展

ICTが飛躍的に発達し、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)等の普及に伴い国内外における時間的距離が大幅に短縮されるなど、コミュニケーションや情報発信・取得において利便性が向上し続け、また、IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)・ロボット・ビッグデータ等を駆使した技術革新、第5世代移動通信システム(5G)によるソリューションも急速に進んでおり、サイバー(仮想)空間とフィジカル(現実)空間の高度な融合による新たな価値観やあらゆる可能性が実現されてくることが予想されることから、こうした要素を積極的にまちづくりに活用し、地域社会の発展につなげていく必要があります(Society5.0)。

一方、人と人とのつながりの変化、犯罪形態の多様化、子どもの生活や発達への影響、年齢や環境による情報量の格差など、新たな問題も生じてきています。

##### ④環境とエネルギー問題の深刻化

地球規模で、温暖化をはじめとした環境問題やエネルギーの大量消費問題が深刻化し、環境負荷の低減や資源環境の保全・再生可能エネルギーの活用といった環境に対する意識や関心が高まっており、地域特性を活かしたエネルギーへの転換や地域の取り組みといった持続可能な低炭素・循環型社会への推進が求められています。

### ⑤多様化するライフスタイルと価値観

社会環境の変化に伴い、女性の社会進出と活躍の機会の増加、新たな働き方や就業体制など多様なライフスタイルや価値観が広がっており、世代や性別・障がいの有無にかかわらず様々な価値観を尊重し、一人ひとりの個性と能力が発揮できる環境づくりが求められていることから、住民が心豊かにいきいきと暮らすことができる共生型の地域づくりを推進していく必要があります。

### ⑥地域経済の変化

地球規模でのネットワーク化の進展に伴い、市場規模の拡大や貿易の自由化が急速に発展し、農畜産物や加工品の輸出入・流通が拡大するなど、経済のグローバル化や産業構造の高度化が進んでいます。

また、交通ネットワークの拡大や SNS 等の普及により、アジア圏をはじめとした海外からの観光客も増加してきており、今後、さらなるグローバル化によって、地域間・国際間の交流が一層活発になるとともに、産業競争も高まることが予想されることから、地域資源を活かした産業の振興や地域経済の基盤強化を図ることが重要となります。

### ⑦持続可能な社会の構築

2015年（平成27年）9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が掲げる2030年までの国際社会全体で取り組む目標として、「持続可能な開発目標（SDGs）」が示されました。

日本では、2016年（平成28年）12月に決定した実施方針にて全国の地方自治体等による積極的な取り組みが必要であるとしているなか、北海道でも2018年（平成30年）12月に推進ビジョンを策定しており、当別町を取り巻く情勢・課題と共通するものが多いことから、SDGsの理念を踏まえたまちづくりを進めます。

※SDGs（持続可能な開発目標：「Sustainable Development Goals」の略称。2030年までの国際社会全体で取り組む目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットから構成されている。）



(出典：国際連合広報センター)



## 2) 当別町の目指す姿と基本理念

『当別町第6次総合計画』は、これまで進めてきた「当別町第5次総合計画」および「当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づくまちづくりに、人口減少の現状を踏まえ、これからの当別町を見据えた計画としています。

- ①地方創生の推進により人口減少問題を解決すべく、自らのまちの将来像をデザインし、実現させます。
- ②まちの将来を担う人材の育成を目指して、乳幼児から高齢者までの幅広い人づくりのあり方を描きます。
- ③少子化・高齢化を受けとめるとともに、「人生100年時代」を見据えて、地域で支え合い、健康で心豊かな暮らしができる住みよい当別町を描きます。
- ④環境・エネルギー・公共交通など、当別町のみならず、北海道内、国内の様々な課題を重く受け止め、積極的な課題解決に向けて進めます。
- ⑤域内循環・企業誘致などにより農業・商工業を中心とした産業の活性化に向け、活力あるまちづくりを推進する礎とします。

### 4-2 まちづくりの基本目標

『当別町第6次総合計画』により、住民の生活のしやすさ、楽しさ、そして健康を守り、育て、大都市近郊の緑豊かな住環境で子育て世代や学生を惹きつけ、また、年齢や障がいの有無などに関わらず、あらゆる人が幸せに暮らせるまちづくりを都市づくりの基本目標とします。

### 4-3 都市づくりの目標

都市づくりの理念にもとづき、「住民の生活のしやすさ・楽しさ」、「健康を守り・育てる」、「大都市近郊の緑豊かな住環境」、「あらゆる人が幸せに暮らせるまち」として、暮らし続けられる都市づくりを進めるとともに、今後は人口の減少や少子高齢化の進行を見据えたコンパクトで利便性と持続性の高いまちづくりを進めていきます。さらには、地球環境保全の視点に立った持続可能な低炭素型都市構造への転換を目指します。

#### 都市機能の集約

- ▶町内各地からアクセスの良い「石狩当別駅」と「石狩太美駅」の周辺地域を、医療・福祉・商業といった様々な都市機能の誘導による利便性の向上を図り、「住みたくなるまち」、「出かけたくなるまち」を目指します。

#### 誰もが使いやすく、持続可能な公共交通の形成

- ▶コミュニティバスの運行により公共交通人口のカバー率は86%となっていますが、ニーズに応じたバス路線およびダイヤの見直しや、鉄道・バス・タクシーなどの連携、ICTの活用により、気軽に「出かけやすいまち」を目指します。



### 地域経済の強化

▶町内の働く場を確保し、また、交流人口を増やすことが、地域内経済の循環と強化に繋がります。そのために、空き家・空き店舗の活用や、企業誘致・起業支援を促進し、また、農地の集約や ICT を活用したスマート農業等の普及を図るなど、「ビジネスに挑戦する人を応援するまち」を目指します。

### 子育て世代が豊かに暮らせる環境の構築

▶人々のライフスタイルが多様化するなか、大都市へのアクセス性が高く、かつ、緑豊かな大自然での生活ができ、子育て世代が生活しやすいまちづくりを進めます。一体型義務教育学校の開校やゆとりある宅地の提供、子育て世帯向け町営住宅の整備、町外へ通学する学生の交通費助成等の支援を進め、転出者の抑制と移住による若年層の定住人口の増加を目指します。

### 共生型のまちづくり

▶福祉の領域だけではなく、教育・学習・文化・スポーツ・産業・防犯・防災・環境・交通、そしてまちづくりなど全ての分野において、人・性別・世代を超えて、生きがいを共に作り、地域社会全体で相互に支え・支えられ、より包括的なケアで交流を生む「地域共生のまち」を目指します。

## 4-4 将来の都市構造

当別町の長い歴史の中で形成されてきた個性や地域性を守り育て、都市の発展と将来のあるべき姿を創造し、今後の都市づくりの方向性を示すため、当別町の都市構造を軸線とゾーンにより規定します。

### 《軸線》

#### ○交通軸

広域圏を連絡する国道や道道、JR札沼線（学園都市線）を交通軸と位置づけ、人や物の移動を活発化します。

#### ○水と緑の空間軸

北部の森林から流れ出し、都市を貫流する当別川を水と緑の空間軸と位置づけ、河川緑地や河川の水質の保全を図り、豊かな自然を享受する親水空間の形成を図ります。

### 《ゾーン》

#### ○市街地ゾーン

当別町における市街地を「市街地地区」、「居住・都市機能誘導ゾーン」、「近自然型住宅地区」、「周辺田園地区」、「工業流通産業地区」の区分による市街地ゾーンと位置づけ、各々の特性に応じた都市づくりを進めます。

##### ●市街地地区

本町市街地及び太美市街地を中心拠点として位置づけ、都市機能（公共施設、商業施設、文化施設）の集積を促進するとともに、他地区からの公共交通によるアクセスを強化します。

##### ●居住・都市機能誘導ゾーン





中心拠点の中でも、特に利便性が高く、居住もしくは都市機能を誘導すべきエリアを居住・都市機能誘導ゾーンとして位置づけ、立地適正化計画の目的である「コンパクト・プラス・ネットワーク」を実現させます。

●近自然型住宅地区

スウェーデンヒルズ、みどり野、優良田園住宅地を近自然型住宅地区と位置づけ、背景となる森林と調和を図りながら、ゆとりと豊かさを感じられる住宅地づくりを行います。

●農業集落地区

農業地域内にあって、古くから地区のコミュニティの中心となっている農業集落を農業集落地区と位置づけ、農地の保全及び農業者の確保しつつ、公共交通による中心拠点へのアクセスを確保することで生活環境の維持を図ります。

●工業流通産業地区

本町市街地に位置する国道 275 号の沿道は、工業流通地区として位置づけ、地域雇用を確保する優良企業の積極的な誘致や集積を図ります。

○田園（農業）ゾーン

平野部に広がる農業地域を田園ゾーンと位置づけ、当別町の基幹産業である農業の基盤として優良な農地の保全を図ります。

○森林ゾーン

都市の北西に広がる森林地域を森林ゾーンと位置づけ、自然と調和した都市づくりを進めます。

○企業誘導ゾーン

大都市に近接する地理的優位性を最大限に生かし、国道 337 号（道央圏連絡道路）と国道 275 号の沿道周辺を企業誘導ゾーンと位置づけ、土地利用の規制等を行って地域の農業振興と調和した優良企業等の適切な誘導を図ります。なお、産業力強化の一翼を担い、まちの稼ぐ力を向上させる起爆剤として、平成 29 年 4 月に道の駅「北欧の風 道の駅とうべつ」が開業しました。

●新駅設置予定地周辺地区

新駅の設置予定地である太美市街地及び道の駅周辺地区で、「新しいまちの顔」として人の呼び込みにつなげる取り組みを推進します。

将来都市構造図

